

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズ

2024～2025年度 No.312

12月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共に那須YMCAの活動を探る



強調月間：キリスト教理解

IBC

祈りの輪(8日)

今月の聖句 イザヤ書40章10節
主の道を備えよ。見よ、主は力を帯びてこられる。

2025年度 那須ワイズクリスマス例会のご案内

光は暗闇の中で輝いている。ヨハネ1：5

シャローム 今年も暦が巡って最後の月を迎えました。師走という言葉の中に、今年なすべきことで積み残しはないかの点検と、来たるべき年を迎える備えは怠りないかという緊迫感が感じられます。一日一日が走るように過ぎ去っていく中で、難民となって故郷を後にした方々、何よりも、豪雨による、火災による被害等による被災者の方々、多くの重荷を負っておられる方々に、主の御支えと励ましを心からお祈りいたします。

また、復旧に取り組んでおられるすべての方々のお働きに感謝いたします。1日も早い復興復旧を心からお祈りいたします。重ねて、世界中で今この時も続いている、政治危機、飢餓、迫害、差別、弾圧、災害、伝染病、貧困等々が一刻も早く乗り越えることが出来るように祈ります。そのために私たちささやかな活動が用いられますように。

さて、今年もYMCAの学生リーダーや善徳園の皆様をお迎えして、クリスマス例会を下記のように開催いたしますので、ご出席くださるようご案内いたします。

1. 日 時：2025年12月20日(土) 18:00～

2. 場 所：西那須野教会礼拝堂と1階ホール

3. 内 容：

第1部 パイプオルガン演奏によるキャンドルサービス(燭火礼拝)

(飯題) あなたのために ルカ2：8～17 西那須野教会 潘 炯旭牧師

第2部 クリスマス祝会

○愛餐会 おいしいものがいっぱい

○リーダーによるゲーム指導

○その他

4. 会 費：ゲストは無料(ご招待)

会員：1,000円



2025～2026年度 主題

国際会長：(IP) エドワード・オン (シンガポール)

『信念、愛、行動』

アジア太平洋地域会長：(AP) 田上 正(熊本むさしクラブ)

『信念と愛を持って行動しよう!』

東日本区理事(RD)：山下 真(十勝クラブ)

『ワイズのらしさ再発見』

北東部長：三田 庸平(もりおかクラブ)

「ユースと共に明るい未来を」

クラブ役員

会 長：村 田 榮

副会長：田 村 修 也

書 記：藤 生 強

会 計：鈴 木 保 江・村 田 榮

担当主事：武 田 将 吾

ブリテン：田 村 修 也・村 田 榮

11月例会データー(出席率：85.7%)

メンバー4名、メネット2名、ユースリーダー5名

ゲスト4名、(広義会員2名)

メイキャップ

12月 Happy Birthday

12/30 張 ウエリ メン

1月例会(新年例会)

日時：1月17日(土) 午前11時30分～

場所：龍鳳園

2月役員会(第2例会)

日時：1月17日(土) 午後2時～

場所：田村副会長宅

2月例会(リーダー報告会・卒業生感謝会)

日時：2月24日(火) 午後7時～

場所：西那須野教会

巻 頭 言

担当主事 武田 将吾

【若きリーダーパワー】

2025年も残すところあと数日。今年も猛暑の余波が9月末まで続き、あっという間の秋を経て、朝や夜にはかなり寒さを感じています。

上半期を振り返ると、今年は例年以上にリーダーの熱量の高さをユース事業担当として感じる。毎年YMCAは入ってくるリーダーの人数は安定しない。年度終わってから動き出し、4月はリーダーたちと新リーダー獲得に向けて奔走する。私も2019年からYMCAでリーダー活動を始め、携わって7年目になるがこれは本当にわからない。新リーダー獲得に力を入れた年があまり入らなかったり、力を入れなかった年が多かったりする。その中でもここ2年は多くのリーダーがYMCAに入ってきてくれている。他県のYMCAスタッフからは「リーダーは生ものである」という言葉を聞いたことがあるが、まさしくそうだと感じる。時代と共に移り行くもの。私がリーダーをしていた4～6年前ともやりたいこと、興味のあること、考えていることが違っており、時代の流れを感じる。自分たちが行っていたときの考えでそのままリーダーと相對してもうまくいかな。そこが悩みでもあり、この仕事の面白さでもある。仕事をしている中で、多くの年代の方とお会いできているが、子どもや大人と接するよりリーダーとの関わりが一番難しいのではないかと感じるくらいだ。

さて、話を戻すと今は特に大学2年生の世代に熱量が高いリーダーが集まっている。スプリングシーズン頃から中心としてプログラムを引っ張るリーダーがでてきており、今まさに油が乗っている。那須YMCAのリーダーは多くが大学3年の秋頃から実習、卒業試験勉強、国家試験勉強に臨む。そのため、大学2年生の秋から大学3年生の夏が中心として活躍している時期だ。部活動という「自分たちの代」といった状況だ。その自分たちの代に入る前に今の2年生は多くの経験を積むことができています。

9月に行われた東日本リーダーズフォーラムでは、東日本のリーダーたちと富士山の麓で3日間過ごし、「環境問題」をテーマに話し合い、自分たちのホームに帰った際に何ができるかを考えてきた。10月に行われた全国YMCAリーダー研修会では、「Well-being」をテーマに徳島県の阿南市で各県を代表するリーダーたちと寝食を共にしてきた。そして、自分たちができること、自分たちに足りてないことを考察して帰ってきた。

スプリング、サマーシーズンでの活躍、日々の定例活動での楽しみと挫折、全国からの刺激を経て大きく成長している。1年前はまだまだ自信のなさ、かわいらしさが残っていた現大学2年生もこの1年で逞しい姿に成長している。今、熱量が高く全国を経験したリーダーたちは夜な夜なオンラインでつないで、「何かとちぎでできることはないか」とプロジェクトを考案していると聞く。これは、YMCAスタッフが指示したわけではなく、自発的なものである。那須、とちぎの中心となるこれからの1年。どんな躍進を見せてくれるか楽しみで仕方がない。

近隣の県を見渡しても、若いリーダーに勢いがあることはとちぎYMCAの強みである。まだまだ消極的な部分も見えるが、リーダーの「やりたい!」という前向きな気持ちを後押ししていきたい。冬が過ぎ、春が訪れれば、大学1年生リーダーが頭角を現すだろうし、新リーダーも招くことになる。熱い気持ちを大切に、明日の自分へ、そして未来へとリーダーたちはバトンを繋いでいく。



11月例会 ユースリーダーとの懇談会 於: 日本基督教団 西那須野教会 2025.11.20

11月例会(ユースリーダーとの懇談会)報告

日時：11月20日(木) 午後7時

場所：日本基督教団 西那須野教会

参加者：田村、藤生、武田、村田の各メン。田村、村田の各メネット、ユースリーダー5名、潘牧師ご夫妻、古川、飯沼の西那須野教会関係者4名。

「ユースリーダーとの交流会」をテーマに、那須YMCAユースボランティアリーダー5名をゲストに迎え、「那須YMCA及びユースリーダーとの協働を考える」機会としました。今年の6月例会にて行った交流会の第2弾となります。

会場にお借りした日本基督教団西那須野教会の皆さんが作った食事を頂いた後、1時間ほどの短い時間でしたが、ユースリーダーとワイズ他(メン、メネット、教会員などのゲスト)が話し合いをしました。

那須YMCAユースリーダー会を担当する武田とちぎYスタッフ(那須ワイズ担当主事)から「ユースリーダーとワイズの協働として何が出来るか」などテーマを伝えられ話し合いを始めました。

ワイズの中にリーダーが座って隣同士の1対1で話をしました。ユースリーダーが1回ローテーションし、2回の話し合いを行いました。集団ではなく個々での話し合いのため、お互いの意見や思いをたくさん話すことが出来たようで、有意義な交流となりました。

出席したリーダーの数名が過去に参加した「ユースボランティアリーダーズフォーラム」や「全国リーダー研修会」ではここ数年「環境問題」や「SDGs」をテーマに取り上げることが多いようで、那須YMCAとしてその取り組みを行えないかという思いがユースリーダー達から多く聞かれました。

具体的な活動内容まで話し合いを進めることは出来ませんでした。ユースリーダー達の想いを感じ、ワイズとして協働で取り組むことが出来たらと感じました。

今後も、ユースリーダーと話し合いを重ね、意見交換をし、具体的な活動の立案と実施に繋がっていただければと思います。いよいよユースリーダーとの「はじめの一步」が踏み出されました。



最後にユースリーダーへの支援金(スキーキャンプに向けてのリーダートレーニング)を武田担当主事に贈呈した。

11月ワイズ例会に参加して

つなリーダー・3年

今回のワイズ例会では久しぶりにワイズの方々とお話ししたため、那須YMCAの近況報告や自分自身の最近の出来事などを話すことができ、とても良い体験ができました。お話しをするとワイズの皆さんとアジア学園の来店などのいろいろな出店をしてみたいと感じました。

なっばリーダー・2年

ワイズの皆さんの貴重なお話を伺うことができ、また、全リー研での学びをリーダーに伝え、今後の活動に活かしたいという思いもお伝えでき、大変有意義な時間となりました。今後もワイズの皆さんと交流し、多くの貴重なお話を伺いながら関わりを深めていきたいです。

あいすリーダー・2年

今回の例会では、フォーラムで学んだことや考えたこと、新たに知れた他Yの活動の魅力をお話することができました。今後は、私たちの中でもとちぎYMCAならではの魅力をもっと詳しく考えて、他のYMCAに発信していきたいと思います。

しゅうリーダー・2年

那須ワイズ例会に初めて参加し、ワイズの方々と関わる事ができました！食事会ではたくさん話ができ、とても楽しい時間を過ごしました！大学生活の話をしたり、ワイズの方々から色々なお話を聞いたりすることができました！次の機会ではトランプや連想ゲームをやりたいです！

せつぷうリーダー・4年

当日は西那須野教会の皆さんが作ってくださったカレーライスなどをごちそうになり、ワイズの方々とこれまでのYMCAの活動や、今後、リーダーとしてどのような活動をしていきたいかなどを話し合いました。YMCAの活動だけでなく、普段のワイズの方が行っている活動もできる範囲でリーダーとして活動したいと感じる例会となりました。

第2例会(役員会)報告

日時：11月20日(木) 午後6時～

12月4日(木) 午後4時～

場所：西那須野教会、田村副会長宅

出席者：田村、村田、武田各メン、田村、村田メネット

1. 12月例会について

12月20日(土)に日本基督教団西那須野教会にて、パイプオルガンによる讃美礼拝、祝会を行う。お話は、潘牧師、奏楽は、木村真喜子姉に依頼。養徳園の案内は、田村副会長に依頼。食事の準備は、

田村有希子姉に依頼。ゲストに養徳園の人たち、ユースリーダー、中村さん、ギデオン協会、アジア学院、西那須野幼稚園、西那須野教会員他歓迎する。養徳園へのプレゼントは、ミカン2箱。クリスマス献金。プログラム作成は田村副会長。教会に貼るポスターは村田が作成。リーダーによるゲームを依頼する。謝礼、潘牧師10,000円、木村真喜子姉5,000円、田村有希子姉5,000円、お手伝いの人3,000円×2。クリスマス献金先、養徳園、アジア学院、那須聖園老人ホーム、西那須野幼稚園各10,000円。クリスマスプレゼント、古川姉、高久姉、10,000円×2。会場づくりは当日の午後4時より、メインテーブルは卓球台。周りにテーブル7台と座る椅子を設置。駐車場は、幼稚園に依頼。会費は、メンバー1,000円、その他の方々は招待。

2. 1月例会について

1月17日(土)、午前11時30分～、龍鳳園で行う。場所の予約は、田村姉に依頼。招待者としては、潘牧師ご夫妻、中村さん、リーダー、その他お世話になっている方々(木村真喜子姉、田村有希子姉、古川姉、高久姉、福本夫妻、平山夫妻)。司会は藤生メン。プログラムは、ゲスト紹介、新年の抱負。会費は、メンバー3,000円。

3. 2月第2例会(役員会)は、1月17日の例会後、田村副会長宅。

4. 2月例会について

ユースリーダーの報告会と卒業リーダー感謝会とし、2月24日(火)午後7時から、西那須野教会にて行う。卒業リーダー男子3名、女子4名。

5. シイタケ昆布の購入

1月17日(土)の例会に合わせて購入する。各自の注文数は1月9日までに村田まで。

開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」(14)

副会長 田村 修也

私には弥三郎さんがあのアブラハムのように思えるのです。創世記12章が等始まる信

仰の創始者あのアブラハムです。主はアブラムに言われた。「あなたは生れ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にする。あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。」アブラムは主の言葉に従って旅立ちました。

また、新約聖書ヘブライ人への手紙には「目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです。」と書かれてあるように、弥三郎さんには、インマヌエル、共にいて下さる神様をいつも身近に

感じて開拓の日々を過ごされたのでしょうか。

旧約聖書イザヤ書35節に「荒れ野よ、荒れ地よ、喜び踊れ。砂漠よ、喜び、花を咲せよ、野ばらの花を一面に咲かせよ。花を咲かせ、大いに喜んで、声をあげよ。砂漠はレバノンの栄光をあたえられ、カルメルとシャロンの輝きに飾られる。人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る。・・・」。

「荒れ野に水が湧きいで、荒れ地に川が流れる。熱した砂地は湖となり、乾いた地は水の湧くところとなる。山犬がうずくまるところは、葦やパピルスの茂るところとなる。そこに大きな路が敷かれ、その道は聖なる道と呼ばれる。」と書かれてありますが、弥三郎さんには、この那須野の大地が、神に約束された、緑と水の豊かな、豊穡の地、乳と蜜の流れる約束の地として、確信を持って受け止められていたのでしょうか。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

認定こども園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

さて、先頃NHKの朝ドラ「あんぱん」が最終回を迎えました。私は週末に放映された特集を時々観ました。園の1歳児たちは、私にアンパンマンの人形を見せながら「アンパンマン、アンパンマン」と嬉しそうに教えてくれます。このように、アンパンマンは子ども達のみならず、今も多くの人々に愛され続ける存在です。その作者であるやなせたかしさんが、このドラマの主人公でした。

「アンパンマン」は、私の子ども時代には存在しなかったヒーローです。私が初めて深く意識したのは、ある異業種研修会でのことでした。どこかで聞いたことのあるメロディーが会場いっぱいに流れ、講師の方が最後に「アンパンマンのマーチ」の歌詞を配布されました。「子ども達は毎日この歌を口ずさんでいます。私たち大人は、この子ども達に伝えるような生き方を、一日一日大切に積み重ねることが必要です」と話されたのが印象に残っています。

世の中には多くのヒーローがいます。けれども、多くのヒーローは悪を倒すと同時に街を破壊したままにしたり、善と悪が入れ替わったりすることもあります。やなせたかしさんは著書の中で、「逆転しない正義は献身と愛です。それも決して大げさなことではなく、目の前で餓死しそうな人がいるなら、その人に一片のパンを与えることです」と述べています。アンパンマンはまさに、自分を犠牲にして人を助けるヒーローなのです。

ご本人の信仰は詳らかではありませんが、奥様の

暢(のぶ)さんは、日本基督教団高知教会で洗礼を受けておられます。そのため、たかしさんご自身もキリスト教の影響を受けていたと思われます。「献身と愛」という言葉、そしてアンパンマンが自らの顔(パン)を分け与える行為は、キリスト教の聖餐式(せいさんしき)に通じるものがあります。

本園の建学の精神は「自分を愛するように、他の人をも愛しなさい(マタイによる福音書22章39節)」です。この精神は、アンパンマンの世界に流れる「他者を思う心」と響き合います。子ども達は遊びや制作、生活のなかで、誰かのために行動する喜びを経験します。その姿は、献身と愛の小さな実践です。

子どものいないやなせたかしさんは「アンパンマンがぼくらの子どもだ」と記しました。私たちの園に通う子ども達もまた、「助けるヒーロー・ヒロイン(ジェンダーレス)」として育ってほしいと願います。

今度の造形展で展示される一つひとつの作品は、子ども達が自分の力を信じ、他者と関わりながら成長してきた証です。その背後に流れる「聖書の愛を基にした教育」を大切にしながら、私たち保育者もまた、日々の歩みを献身と愛をもって重ねていきたいと思います。

(しらゆり 2025.10.31 加筆修正)

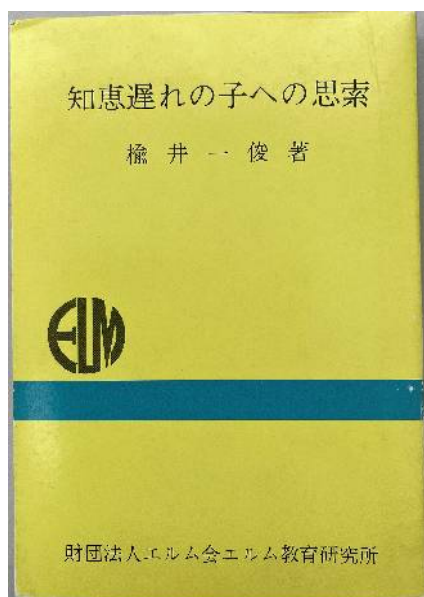
エルム福祉会便り

社会福祉法人 エルム福祉会

常務理事 川上 聖子

「知恵遅れの子への思索」 楡井一俊著

(1993年10月)



はじめに

「すべては、主の栄光のために」——これが今の心境です。

財団法人エルム会設立から10年、その間、多くの人達の善意に支えられてきました。そして、この10年の節目に、今までお世話になっ

た人達に、何かお礼をしたいと願ってきました。その願いの中から、今まで、あちこちに書いてきた「ちえ遅れの子への思索」と題する拙文を、まとめて、

一冊の本にして、それを贈ったらどうかと思うようになりました。

もとより、浅学非才ですから、深い思想の裏付けなどありませんが、今までに関係してきた知的発達に障害のある人達のためにも、そのひとりひとりの人生に敬意を表する意味で、ぜひ、まとめてみたいと思うようになりました。

そして、いくらかペダンチックだと言われるかも知れませんが、真意は、冒頭の「すべては、主の栄光のために」であります。

エルム会のモットーは、「神様に喜ばれる人になろう」です。これは、入所している人達ばかりではなく、わたしを含めた職員にも示されたためあてです。何事においても、「神様がよろこんで下さるだろうか」が、尺度になります。

今回のこの本の発行も、「神様が喜んで下さるだろう」と思うのです。

パウロは、テサロニケ人への第一の手紙で、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事に感謝しなさい。」と諭してくれています。今までの、ささやかな実践の中で、学んできたことは、やはり、わたしにとって感謝すべきことなのです。その感謝を、できるだけ多くの人達に分けてあげたいと思います。分たれた喜びは倍になり、分たれた苦しみは半分になるからであります。

1993年10月 楡井一俊

一匹と九十九匹と

——特殊教育の役割——

マタイ伝十八章に「汝等いかに思うか、百匹の羊を有てる人あらんに、若しその一匹まよわば、九十九匹を山に遺しおき、往きて迷へるものを尋ねぬか。もし、之を見出さば、誠に汝等に告ぐ、迷わぬ九十九匹に勝りて此の一匹を喜ばん」とあります。わたしはこの章を、福田恒存氏の一論文で知りましたが、氏がいわれている文学の政治に対する役割が、そのまま、わたしには、現代の教育に対する特殊教育の役割に当てはまると思うのです。

多くの羊たちを山に遺しておいても、迷える子羊をさがす気持、そして、これを見つけて、多くの羊達のこと以上に、この見つけられた羊のことを喜ぶ気持が、今日の教育の分野で、どのように実現されているかということを考えるとき、わたしは、この章の、これらのことばが、珠玉のもののように思われてくるのです。

もちろん、多くのもの、正常なものが大切なことはいままでもありません。教育の現場では、できるだけ多くのものが、上級学校の入試に合格するようにすることも大切だと思います。そのためには、他校の生徒がおちても、自校の生徒が受かることの方

が、大きな喜びにちがいありません。そして、教育が進めば進むほど、不良青少年がたくさん出てくるという矛盾は、確かに社会環境が悪い故だけかも知れないのです。しかし、反面わたしは、教育というものは、そんなに無力なものかと疑っています。戦争中、わたし達の少し上の人達は、喜んで死んでいきました。戦争が終わった時、わたし達は、本当に涙を流し合いました。そうした心にしていったのは誤った教育だったかもしれませんが、確かに教育の力だったのです。

教師の地位は明らかに社会的には低いけれども、わたし達はそれによって、教育は無力だなどと思っ
てはならないと思います。その教育の果す役割の中で、特殊教育は、重要な一翼を担っていることを、あらためて、認識するものであります。

※当時の表現をそのまま使用しております。ご了承ください。

なお、この本を保存するために、「SELP みなと」の利用者（O. S）が、パソコンですべて入力してくださいました。感謝です。

YMCAだより

【とちぎYMCAリーダーートレーニングキャンプ2025】

11月29日～30日にかけてリーダーートレーニングキャンプ2025を宇都宮市冒険活動センターで実施しました。

レクリエーションや焼き板作り、パネルディスカッションなど2日間盛りだくさんの内容となりました。初めてキャンプに参加するリーダーや1年生の参加者が多く、たくさんの人との関係性を構築できる機会となりました。

また今回はとちぎYMCAのOBOG会『きらり』がグループカウンセラーとして、グループに入りました。現役リーダーとOBOGが交わることで、現役リーダーにとって学ぶことが多いキャンプとなりました。今後のウィンターシーズンや2026年に向けて弾みがつくプログラムとなりました。

ワイズのよりの支援金ありがとうございました。



【とちぎYMCA・那須YMCAの12月の予定】

- ・12/13（土）～15（月） 北関東YMCAスキーリーダーートレーニング
- ・12/21（日） とちぎYMCA内部スキーリーダーートレーニング
- ・12/28（日）～30（火） 菅平エンジョイスキーキャンプ

ユースリーダーのつぶやき

- ①本名（リーダー名）②学校名 学部なども
- ③出身地④YMCAに入ったきっかけ⑤思い出に残った活動とその理由は？⑥今後の進路は？
- ⑦YMCAに一言

今月は、11月例会に出席して下さった、リーダーの感想文に変更しました。